

2012年 JEAN 活動報告

◆JEAN 主催事業◆

海ごみサミット 亀岡保津川会議

第10回目となりました2012年の海ごみサミットは、海岸線を有しない内陸部の京都府亀岡市において、河川流域における漂着ごみの発生抑制モデルを全国に向けて発信し、内陸部から海ごみの減量化と被害の軽減について討議しました。



海ごみプラットフォーム・JAPAN

JEANでは、2007年から全国の海ごみ問題に関わる関係者が一堂に会する機会として、「海ごみプラットフォーム・JAPAN」を開催しています。2012年は7月に、廃棄物対策としてのデポジット（預かり金、保証金）制度の実施について、専門家の講演を交えながら議論し、また各地の取り組み事例などを紹介しました。

◆学術研究への参画・協力等◆

「海ゴミによる化学汚染物質輸送の実態解明とリスク低減にむけた戦略的環境教育の展開」

環境省地球環境研究総合推進費研究プロジェクト：愛媛大学沿岸環境研究センター、九州大学、国土技術政策総合研究所の研究者による共同研究

JEANは、沖縄県石垣島、那覇市、福岡市、長崎県福江島、新潟県佐渡島、山形県酒田市、山形市、青森県むつ市において、海ごみ問題に関する学習会「海ごみサイエンスカフェ」を開催。2012年度で2期6年間の海ごみ研究プロジェクトが終了。

津波起源漂流物目視観測

鹿児島大学水産学部と全国水産高校実習船による共同観測

2011年3月11日の津波によって発生した大量の漂流物は、現在、北太平洋を東に向かって漂流しており、環境省の予測によると、2013年4月より北米大陸西海岸に大量漂着するとされている。本観測では、全国の水産高校実習船と協力し、漂流物の目視データを収集している。=> <http://seafrogs.info/marinelitter/mmd311.html>

震災漂流物に関する日米共同調査・フォーラムの開催

北米大陸西海岸における震災漂流物の本格的な漂着に備えて、これまでICCで培ってきたネットワークを通じた日米NGOによる連携事業。2012年8月には、米国オレゴン州で日米ICCコーディネーターによるミーティングを開催。2013年1月にはハワイ州海岸調査、2月には再びオレゴン州での海岸調査と市民フォーラムを開催。2013年3月には、東京と仙台にて本事業の報告会を開催。本事業を通じて、日米のICCコーディネーターやOCとの連携を深めるだけでなく、同じ震災支援活動を行っている国内NGOとの連携を展開することにより、関係者間の新たな



◆JEANのウェブサイトの情報◆

”美しい海を子どもたちへ” JEAN / 一般社団法人 JEAN のウェブサイト

<http://jean.jp/>

JEAN STORE / JEAN が制作した資料や推薦グッズの販売サイト

<http://www.jean-store.jp/>

海ごみプラットフォーム・JAPAN / JEAN が運営する海ごみ情報の共有サイト

<http://malipjapan.jp/>

海ごみプラットフォーム・JAPAN (facebook 版)

<http://www.facebook.com/malipjapan>

「みんなの問題・海のごみ」写真パネルの貸出 / JEAN オリジナル普及啓発資料の貸出

<http://jean.jp/material/photo/>



後援：環境省、水産庁、海上保安庁、国土交通省

協賛：(株) ゴーフィールド、公益社団法人 食品容器環境美化協会、サッポロビール (株)、ジョンソンコントロールズ、無印良品募金券、GREENSTYLE 基金、MS&AD グループホールディングス、Seafrogs.info (50 音順)

発行：一般社団法人 JEAN

〒185-0021 東京都国分寺市南町 3-4-12 マンションソフィア 202 TEL 042-322-0712 FAX 042-324-8252

E-mail cleanup@jean.jp Website <http://jean.jp/>

International Coastal Cleanup 2012

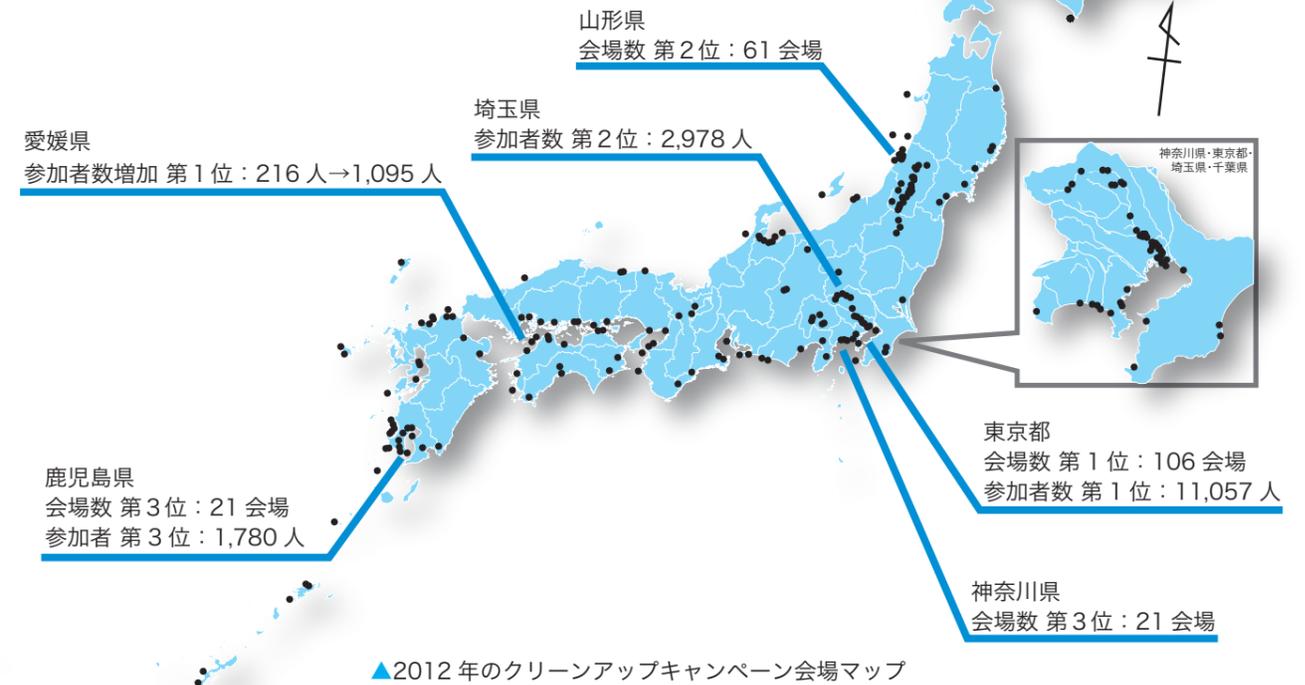
国際海岸クリーンアップ 2012 結果概要



うみそうじん

クリーンアップキャンペーン全体報告

2012年のクリーンアップキャンペーンには、北は北海道から南は沖縄県まで延べ26,495人が参加し、119kmの海岸、河岸、湖岸、水中および内陸から35トンのごみを回収しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



国際海岸クリーンアップ (International Coastal Cleanup : ICC) とは

海のごみ問題は、拾うだけでは決して解決しません。それはいくらごみを回収しても、新たなごみが繰り返し発生し、漂着するためです。「国際海岸クリーンアップ (ICC)」(実施期間：9～10月)は、アメリカの環境NGO オーシャン・コンサーバシーが提案する世界共通の手法で、ごみの内容を調査し、ごみの問題点を参加者一人ひとりに気づいてもらいながら改善するための方策を探る活動です。これから先もずっとごみを拾い続けるのではなく、私たち自身がごみを減らさなければ海ごみ問題は解決しないことを、参加者一人ひとりに理解してもらうことが目的です。